

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271600342
法人名	社会福祉法人 壽光会
事業所名	グループホーム 湖水苑
所在地 (電話番号)	出雲市湖陵町差海318-1 (電話) 0853-43-8955

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成19年6月14日	評価確定日	平成20年2月21日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	12.85 人

### (2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( ) 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	550 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,100 円	

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	児玉医院、えのもと歯科医院、県立中央病院、出雲市民病院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年に建てられたこのホームは、四季折々の表情を見せる田畑や山、そして神西湖といった、自然を身近に感じることのできる場所に位置し、同一法人が運営する特別養護老人ホームやデイサービスなどの同一敷地内に立地している。  
 利用者の意向を第一に考え、共用スペースで横になりながら過ごしたり、自室で趣味活動を行ったりと、利用者それぞれが思い思いに生活している。あわせて、食事の準備や、後片付け、来客者に対する湯茶の準備など、利用者の個人の残存能力を活かす自立支援にもこだわったケアがなされているとともに、併設する特養やデイサービスへの訪問や祭りへの参加など、事業所の特性を活かした支援がなされている。  
 また、グループホームが、「地域密着型サービス」としての位置付けとなったことも含め、今以上に地域との関わりを密にし、より地域に根付いたホーム作りを行おうと、取り組む姿勢が確認できた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価時は、運営理念の啓発や介護計画に関する事項について、改善項目としてあげられていたが、ホーム便りの発行や、定期的な介護計画の見直しを行うなど、すべての項目について取り組み、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で行うなど、運営者、管理者、職員ともに評価の意義を十分に理解しており、これを基とし、よりホームの質の向上を目指す姿勢が確認できた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族、第三者委員をはじめ、行政関係者をメンバーとし、2か月に一回定期的に開催している。会議ではホームの運営状況等の報告がされ、協議・検討がなされるなどサービス改善に活かす取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や第三者委員の設置など、意見を反映させようとする姿勢が見られる。また、家族来訪時には時間を設けるなど、より多くの意見を聴取しようとする取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の特性もあり、思うような連携がなかなか図れていなかったものの、ホームとしても啓発を含め取り組んできたことで、徐々に連携が図られるようになっていく。グループホームが「地域密着型サービス」への位置付けになったことも含め、より地域に根付いたホーム作りを行おうと積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基とし、「人として(中略)私たちはここにいます。」という地域密着にも視点を置いた、ホーム独自の理念も策定されている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で、話し合いがもたれるとともに、ホーム内に掲示し、啓発を図るなど、共有に向けた取り組みが行われている。また、職員は理念を理解し、これに沿った支援を行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加や、保育園への訪問、またボランティアの来所など、地域との交流を大切にし、より地域に根付くホーム作りを行おうとする積極的な姿勢が見られる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を、職員全員で行い、ホームの問題点を見出すなど、運営者、管理者、職員ともに、評価の意義について十分に理解しており、これを活かしたホーム作りを行おうとする姿勢が感じられた。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、第三者委員をはじめ、行政関係者をメンバーとし、2か月に一回定期的に開催している。会議ではホームの運営状況等の報告がされ、協議・検討がなされるなどサービス改善に活かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者とは密に連絡を取り、運営やサービス内容について協議するなど、気軽に相談できる体制が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的なホーム便りの発行をはじめ、家族の来訪時など、それぞれに合った状況報告がなされている。あわせて、金銭管理についても、定期的に報告を行い、家族の承諾を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や第三者委員の設置など、意見を反映させようとする姿勢が見られる。また、家族来訪時には時間を設けるなど、より多くの意見を聴取しようとする取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として複数事業所を運営しており、定期的な異動の実施はあるものの、グループホームの特性が把握され、ホームに関する異動は最小限に抑えるなど、配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出雲地域の連絡会議で職員の研修と管理者の研修に参加したり、外部の研修会にも参加している。また、復命と文書の回覧を行うことで研修に参加できなかった職員のスキルアップも図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲地域の連絡会議に参加し、情報交換を行うとともに、事例研究及び検討会を行うなど、ホームの質の向上に向けたネットワークが構築され、これを活かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭訪問やサービス利用時の訪問で、顔なじみの関係を作っているとともに、ホームの見学やお試し利用など、馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から学ぶ場面が見られるなど、一方的な立場におくことなく、ともに協力しながら生活をしている面が多く確認できた。ホームとしてもこのことを重要視しており、職員も常に意識しながら日々の業務にあたっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活歴や意向の把握がなされ、それぞれに合った対応がなされている。また、日々の生活の中で、本人の希望や意向をより引き出そうと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等の要望を基とし、主治医や職員の意見を含め計画作成がなされている。また、職員会議等で話し合われるなど職員間の共有も行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをはじめ、利用者の状況により随時対応するなど、それぞれの状況に合わせた見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設する特養やデイサービスを活用するなど、事業所の機能を活かした支援がなされている。また、本人・家族等の状況に応じて通院や送迎等、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医をそのままかかりつけ医とし対応している。定期的な往診、緊急時の受診など、主治医との連携が図られているとともに、本人や家族等の希望に沿った支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームはあくまでも自立を支援するところである、とうホームの考えもあり、終末ケアについての方針等は制定されていない。	○	重度化や週末期への対応は本人や家族にとっても大きな問題である。ホームとして方針を打ち出し、ホーム側の考えや意向を明確に伝えることで、重度化の時期を迎えた際に問題が生じないよう関係者全体で取り組むことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の生活歴や性格の把握がなされ、それぞれを尊重した声掛け等がなされている。また、記録等の個人情報についてもしっかりと管理され、損ねることがないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向が十分に把握され、一人ひとりのペースに合わせた利用者主体のケア提供がみられた。職員のヒヤリングからも、職員の都合ではなく利用者のペースに合わせたケアのあり方、柔軟な対応がうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者とともに食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を楽しむことができる支援がなされている。また、食事や後片付けも利用者とともにやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴や1日おき、また夜間など、それぞれの希望に合わせて、実施されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、食事準備や接待など、個々の力を発揮できるよう力を見出している。また、同法人が運営する他事業所への外出や、遠くへの外出等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出については、本人の希望に合わせて、それぞれに対応するなど、利用者の意思を尊重し支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、利用者、家族等とも自由に出入りができる。また夜間については、防犯上の理由により施錠されているものの、家族の来訪など柔軟な対応がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署等の協力を得ながら、定期的に消火訓練や、避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量などは個々にチェックし把握している。 また、利用者の個々のカロリー制限や咀嚼能力に合わせて柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、木目を基調とした温かさを感じる造りとなっており、使い込まれているテーブル、椅子の設置など、心地よく過ごせる空間作りがなされている。訪問時、利用者それぞれが、共用空間で思い思いに過ごしている風景が確認できた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたタンスや棚を持ち込むなど、それぞれの状況にあった居室作りがなされている。居室によっては畳敷きのところもある等、利用者ごとに良い雰囲気を醸し出した居室作りがなされていた。		